

## 謎のおもちゃ「スクイッシュ」の復元

ゆきや(2019. 07. 23)

こんなおもちゃが来ました。  
空気の抜けた風船のようにクタクタとなっていますね。  
6本の色鮮やかな円柱。長さは10cmほどです。  
円柱の先端には球がかぶさり、その根元に黒い紐が、  
無数に絡まりついています。

どうのおもちゃか？ どうやって遊ぶのか？

箱が付いていたので、名前は分かりました。  
ポーネルンド社の扱っているおもちゃで、  
「Skwish (スクイッシュ)」というようです。  
マンハッタントーイ製、価格はおよそ3千円です。  
綴りはちょっと違いますが、英語の辞書にもありました。  
「squish =グシャッとつぶす、圧搾する」  
写真も見つかりました。要は赤ちゃんが、押し潰して  
遊ぶもののようです。

とすれば、黒い紐の正体は、ゴム紐が劣化したもの  
なのでしょう。

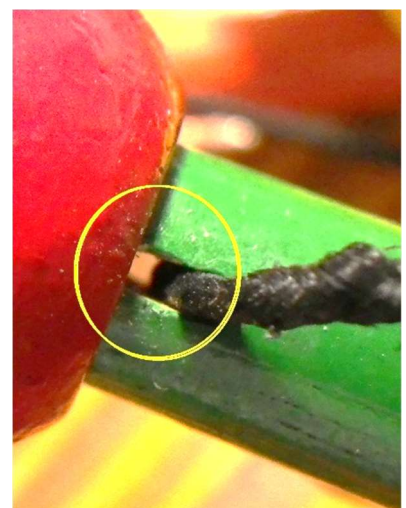
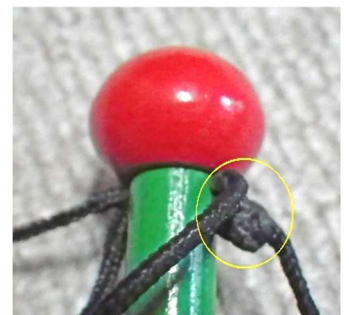
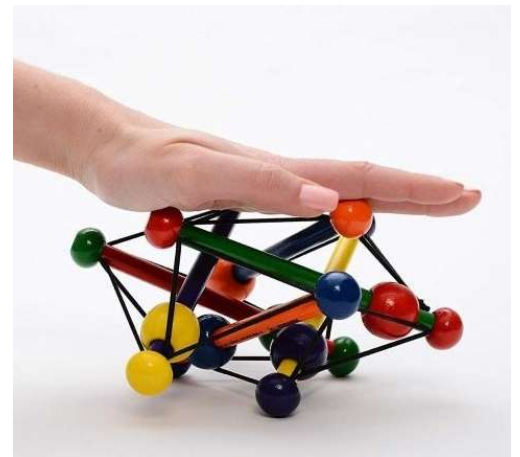
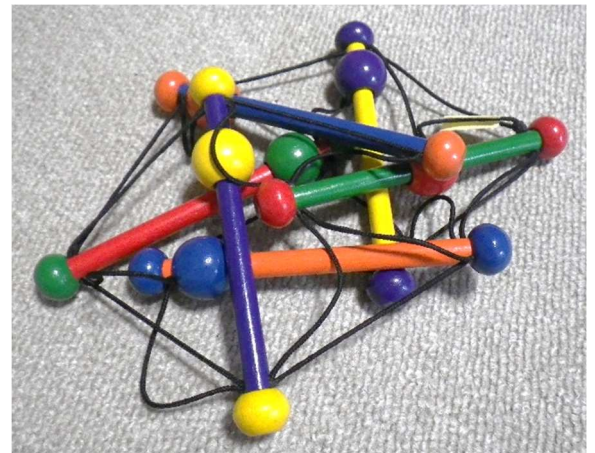
ただ、そのゴム紐が、どのように張られていたのか？  
現物から解き明かさねばなりません。

しばらく見て居る内に、赤い球の根元の紐に、結び目があることが  
分かりました。但し、全体を見ても1カ所しかありません。  
という事は、1本のゴム紐で、一筆書きをしている訳です。

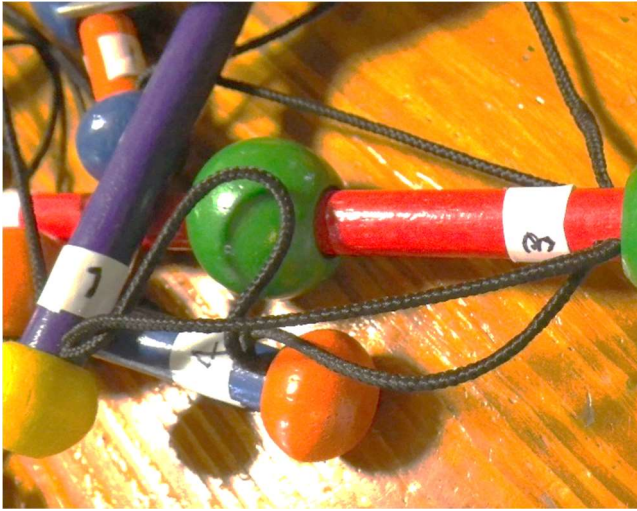
結び目を切って、どのように紐が通っているのか見ました。  
赤い球の根元には四角い穴があって、紐が2回通っています。

作り方を推測すると、円柱に切れ目を入れ、ゴム紐を都合2度  
通して、最後に球をかぶせて接着したという事でしょう。

ただ、球はしっかり接着されていて外れそうにないのです。  
球を外すことなく、別な方法を考えねばなりません。  
最終的には、球の根元に、やや大きめの丸穴を開け、ゴム紐を  
通すことを考えました。



でも一筆書きですから、事は容易ではありません。  
 全ての穴に番号を付け、ゴム紐を抜きながら、一筆書きの順番を辿ります。  
 番号は穴の両方に付けました。赤の柱の「3」の反対側は「4」という風に。



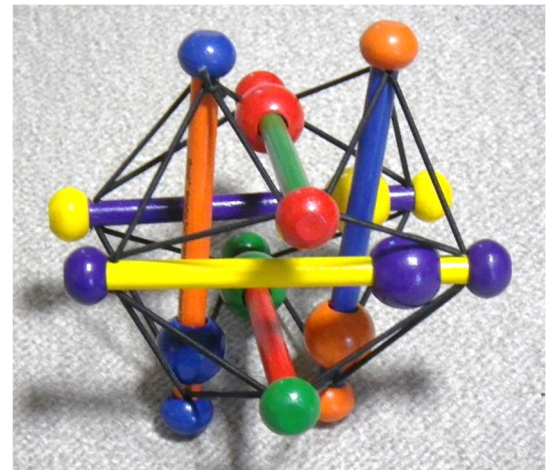
一筆書きをたどったメモの一部です。  
 数字は、ゴム紐の入り口の方の番号です。  
 メモは所々、間違えていますね。

橙<sup>4</sup>3 → 緑<sup>4</sup> → ~~青<sup>2</sup>~~ → 紫<sup>2</sup>  
 → 赤<sup>3</sup> → 橙<sup>1</sup> → 黄<sup>2</sup>  
 → 木橙<sup>3</sup> → 紫<sup>3</sup> → 橙<sup>1</sup>  
 → 赤<sup>2</sup> → 黄<sup>4</sup> → 緑<sup>1</sup>  
 → 黄<sup>1</sup> → 赤<sup>2</sup> → 青<sup>3</sup>  
 → 紫<sup>1</sup> → 青<sup>2</sup> → 黄<sup>3</sup>  
 → 青<sup>3</sup> → 赤<sup>3</sup> → 紫<sup>4</sup>  
 → 緑<sup>4</sup> → 青<sup>2</sup> →

このメモを頼りに、あとは根気の問題です。  
 順にゴム紐を通します。  
 上下・前後が絡まないように気を付けながら、進みます。

途中、果たしてこれで復元できるのか不安になった事も  
 幾度かありました。

ゴムが適度に伸びるように、長さを調節しつつ、  
 ようやく立体の「スクイッシュ」を復元する事が  
 出来ました。



使ったゴム紐は、およそ1メートル半でした。

後で、販売されているスクイッシュと比べると、  
 ちょっと小さめでした。ゴムの強さ、張り方の加減  
 などで、差が出たものでしょう。

蛇足ですが、今回使った手製のひも通しを見て下さい。  
 手芸用の糸通しと原理は同じですが、きわめて頑丈に  
 作ってあります。角材にステンレス線(0.55mmφ)を  
 輪にして通し、末端はツバ付の木ねじで留めています。  
 これなら全力で引っ張っても大丈夫です。

